## 再葬墓だけじゃない！
## 縄文時代の小野天神前遺跡

茨城県教育財団　次席調査員
江原　美奈子
考古部会　協力員

常陸大宮市の遺跡や遺物で一番有名なものは？とたずねられたら、皆さんは何を思い浮かべますか？やはり泉坂下遺跡の「いずみちゃん」、それとも坪井上遺跡の「ヒスイの大珠」でしょうか。ここで取り上げる小野天神前遺跡も、1976年の学術調査で弥生時代の再葬墓を調査し、３点の人面付壺形土器が出土していることで著名ですが、その調査の以前からたくさんの縄文時代の遺物が出土する場所として知られていました。1976年の調査は再葬墓を確認することが目的でしたので、調査及びその後の調査報告書は弥生時代の再葬墓がメインとなりましたが、この調査では縄文時代の竪穴住居跡や多量の縄文時代の遺物が出土しています。今回、市史を編さんするにあたり、これらの遺構と遺物の再整理を行いました。

小野天神前遺跡は、小野字天神前に所在し、那珂川左岸の河岸段丘上に立地しています。調査区は遺跡のほぼ中央部の台地上から斜面部にかけて設定され、縄文時代の遺構は住居跡が２軒確認されています。再葬墓群よりも北側の斜面にかかる辺りで、縄文土器も調査区の北側からより多く出土している傾向がありました。第１号住居跡は、４ｍほどの範囲に土器埋設の石囲炉と、それを囲むように柱穴が確認できました。床面付近からは、後期中葉の加曽利Ｂ１式からＢ２式の土器が多く出土しています。

第３号住居跡は、径４ｍほどの円形で、後期前葉の堀之内１式から２式の土器や、石鏃・磨石などの石器、ハート形土偶の胴部片などが出土しています。常陸大宮市域では、後期の住居跡はほとんど確認されていませんので、貴重な例となります。遺構外からは、住居跡と同時期の遺物のほかに、後期後葉から晩期中葉の土器が多量に出土しており、長期にわたりこの地域の中心的なムラのあとであることが再確認できました。常陸大宮市域では、数多くの縄文時代中期の遺跡が確認できますが、後期以降になると数が減り、那珂川流域の小野天神前遺跡や久慈川流域の泉坂下遺跡など、流域の中心的な遺跡に集中するようです。今後の資料分析を通じて、常陸大宮市の縄文時代の様相を明らかにしていきたいと思います。

▲小野天神前遺跡の整理作業①：実測

▲小野天神前遺跡の整理作業②：拓本

■問い合わせ■
文化スポーツ課
文化・スポーツグループ　☎52-1111（内線344）